

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団如水会		
事業所名	グループホーム「安心」いまむら		
所在地	鳥栖市轟木町1574		
自己評価作成日	平成21年11月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成22年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開放的な玄関。入り口にはお花を飾り、季節感を演出している。居間の窓は大きく南からの光がよく入り明るい。外には花壇・畑を作り、散歩道を設けている。職員は勤続年数が長い職員が多く、安定したホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鳥栖市街地の交通の便の良い場所に位置する母体医療機関より少し入った静かな環境にある。母体医療機関が隣接していることで、緊急時、重度化した時も希望に沿った行き届いた対応がなされることが、入居者、その家族にとって、安心して暮らせる場所となっている。ホームの中は明るく、随所に花、観葉植物が飾られ、神棚、仏壇等、高齢者のなじみの物が置かれ、入居者達が迷い込んだ野良猫を住民の一員にしてしまうなど、入居者の思いを積極的に支えているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中核病院と同じ法人内のホームとして病院が掲げている。クレドの理念に従い運営している。また当ホーム独自の理念を入社時に説明している。	母体となっている法人の理念とともに、ホーム独自の理念「喜び、支え合いを力に」をつくり、入り口に掲示し、カンファレンス、会議等で確認がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の公民館へ訪問し、老人会役員・区長と話している。しかし交流会までは開催できていない。近隣住民より野菜を頂いたりすることはある。	近隣住民より野菜をもらったり、地区の人達が多く利用するデイサービスへの訪問などで、日常的な交流はある。夏祭りへの住民の参加は、少数ではあるが始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人経営のGHでは認知症サポーターの事例があり。今後は当ホームでも研修を受け、家族会等を行いたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の公民館へ訪問し、老人会役員・区長と話している。しかし運営推進会議までは開催できていない。	運営推進会議開催の働きかけは行っているものの、地域包括支援センター、老人会役員、区長、民生委員の参加の協力が得られない為、まだ、開催には至っていない。	参加メンバーを想定し、案内状を送付することで会議の趣旨を理解してもらい、運営推進会議を開催されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鳥栖地区GH協議会への参加を中心に他事業所との交流・情報交換を行っている。実績報告のため月に1回は介護保険課を訪問している。	鳥栖市役所介護保険課、鳥栖地区グループホーム協議会等と、勉強会等を通じて、交流、情報交換が行われ、協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設入り口の施錠は夜間のみ使用し、出来るだけ時間制限している。その他の身体拘束は行っていない。2階入り口の施錠は危険防止の為、家族の同意を得て行っている。	家族の同意を得て、1階、2階入り口は危険防止のため、施錠されている。	鈴、センサーを使用している工夫は行われている。今後も鍵をかけないで済む工夫に継続して取り組まれることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修会は設けていないが、カンファレンスやケア会議などで話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人経営のGHで事例があり。今後は当ホームでも該当する入居がある為勉強する機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主にケアマネ・管理者が立会い全ての書類の説明を行っている。質問等は常時受け付けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に意見箱を設置。また直接代表者へ現場や家族の声が届くよう官製はがきを作成し設置している。ポストへ投函するシステムをおこなっている。	意見、要望を利用者、家族に常に問いかけられている。また、直接、代表者に利用者や家族の声が届くように、玄関入り口に意見箱やはがきが用意され、ポストに投函できるようになっている。把握された意見、要望は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関入り口に意見箱を設置。また直接代表者へ現場や家族の声が届くよう官製はがきを作成し設置している。ポストへ投函するシステムをおこなっている。	管理者が職員の意見や提案を聞くように心がけられている。また、直接、代表者に声が届くように、玄関入り口に意見箱やはがきが用意され、ポストに投函できるようになっている。把握された意見や提案は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週に1回在宅部会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週に1回代表者の施設訪問有り。定期的に院内研修を行っている。また年2回は人事考課を行い面談している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖地区GH協議会に加入している。勉強会への参加を中心に他事業所との交流・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には事前に十分な説明を行い、施設見学を行っている。ショートステイやお試し利用なども行い十分に時間をかけて入所につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望者には事前に十分な説明を行い、施設見学を行っている。事前に十分説明を行い納得して、利用していただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者には事前に十分な説明を行い、施設見学を行っている。ショートステイやお試し利用なども行い十分に時間をかけて入所につなげている。同法人経営の居宅ケアマネとの連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを尊重し、支えあえる・家庭的な環境を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診等には出来るだけ立会いをしてもらっている。定期的にお食事会を開催して交流を深め、出来るだけ多くの情報を共有するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りへ参加している。公民館や老人クラブ等へ訪問しているが、最近は参加できる利用者様が少ない。	顔なじみの人が多く利用されているデイサービスへの訪問、その利用者達によるホームへの訪問は頻繁に行われている。地域の夏祭り、藤棚の見学は家族の人も参加して行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の特徴や要望等を把握し出来る限り自然体で生活出来る様に支援している。食事時間や入浴時間を調整し工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	十分とは言えないが、同法人の居宅ケアマネ等と連携をとり対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・家族の希望を定期的に確認している。出来るだけ希望に副った生活が送れるよう心がけている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を直接聞いたり、日々のかかわりの中で推し測ったり、家族よりの情報で把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族の希望を定期的に確認している。出来るだけ希望に副った生活が送れるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の特徴を把握し、その方に合ったサービスを提供するように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人・家族・職員で話しているが十分に活用が出来ているとは言えない。	定期的・随時に本人、家族、職員間で検討されており、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をする職員としない職員に分かれてしまう為十分とは言えない。今後も記録についてホーム内で勉強会等を行い、記録の大切さを再認識できるようにしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を利用してショートステイの受け入れを行っている。同法人運営の居宅ケアマネと連携し多いときは月に5件近くの依頼がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分とは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関連医療機関と連携し、各専門医の受診がスムーズに行えるように努力している。また、定期的に認知症専門医の診察・助言を受けている。	本人及び家族等の希望を確認し、関連医療機関と連携し、各専門医の受診が行われている。他の医療機関については、家族と相談し、協力を得て行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関連医療機関と連携し、毎週連絡会議を設けている。早期退院に向けた話し合いを行いスムーズに退院に繋がるよう努力している。医療機関との連携も保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から家族・本人の希望を知り、常に確認を行っている。主治医・看護師・施設職員が連携し出来るだけ希望に沿って援助するようにしている。	入居時、本人・家族等にターミナルについての同意書を文書にて取り交わすことで意志を確認し、ターミナル時には、随時、意志を再確認しながら行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、各階事務所に掲示している。入職時は説明を行っており、定期的に確認・見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回関連医療機関の応援体制での訓練を行っている。消防署・設備会社の立会い、指導を受けている。	消防署、警備会社との立ち会いのもと、隣接する医療機関の応援体制での訓練は行われているが、地域との協力体制については築かれていない。	災害の発生時に備えて、地域の消防団等を通じて、地域との協力体制を築かれていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけている	接遇の心得が掲示されており、カンファレンス時に再確認を行うことで、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけゆっくり話をする時間をつくるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や体調を把握し、本人様と一緒に一日の過ごし方を決めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品・乳液などを購入し入浴後に付けている。月に2回美容室の訪問の受け入れを行い		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ季節の食材を使用し提供している。梅干作り・お米作り・干し柿作りなどレクリエーションで行っている。	食材は買い物をしてきたものを加えることで、工夫して調理されている。時々、外食を取り入れ、利用者や職員が食卓を共にして、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な入居者には個別の水分・食事チェック表を作成している。栄養バランスを把握しやすいように業者と契約し、福祉食献立を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に同法人の歯科を受診している。また歯科衛生士より口腔ケアの指導・勉強会を受けており、実践につなげている。個々に合った歯ブラシを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導チェックシートを作成し、トイレ誘導を行っている。日中はできるだけオムツを使用しないに工夫している。	トイレ誘導チェックシートを作成し、一人ひとりの排泄のリズム、タイミングを把握し、誘導が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないように、牛乳・乳製品・リハビリ等で工夫している。また、食物繊維を多く摂るよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は設定しているが、入浴時間を工夫し、個々の希望に応じて入浴できるように支援している。職員と一緒に入浴することもある。	入浴日、時間帯は設定されているが、個々の希望に応じて、曜日や時間帯変更に柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活歴や、状況に応じて安心できる環境・空間作りを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを全職員が見るようにしている。看護師を中心に勉強会を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や散歩など、今まで行って来た生活をホームでも継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望者には行っている。また、希望が無くても定期的に外出の機会を作っている。御家族の協力もいただいている。	家族の協力を得ながら、定期的な外出の他に、外食を楽しんだり、近くの売店へ買い物に出かけられている。又、誕生日には本人の希望を把握し、個別に対応がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	リハビリや受診の帰り、お買い物の際コンビニや売店などに行くようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば病院の公衆電話までお連れする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂を分け、ソファを置き落着ける雰囲気を作っている。観葉植物や置物を飾り、季節感を大切にしている。	居間には観葉植物、置物が飾られている。食堂は大きな窓から光が差し込み、窓からは花、野菜が眺められ、季節感を楽しめるようになっている。食事を作る包丁の音や匂い、神棚、仏壇等が置かれ、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂を分け、ソファを置き落着ける雰囲気を作っている。観葉植物や置物を飾り、季節感を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた物を持ってきてもらい、過ごしやすい環境を作っている。出来るだけ制限の無い環境を提供したい	身体状況に合わせた家具、馴染みの物、家族写真、鉢植えの花等が持ち込まれ、各自、安心して過ごせるよう一人ひとりに適した部屋づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の特徴・希望を把握し、自分らしく一人ひとりに合った時間の過ごし方をサポートしている。		